

**第2学年「みがく」学習活動案**

授業者 杉野 さち子

2月15日（土） 2階C室 9：00～9：40 （話し合い11：00～11：45）

**1 題材名 「回る」のけんきゅう4 「手で回る」****2 題材について**

本学級では、「みがく」の時間に、子どもたちから出された自然事象への疑問を起点とした学習を行ってきた。元々石や色水、実験そのものに興味をもつ子が多かったこともあり、サークルで経験を語り合う中で、「理科をやってみたい」という声が大きくなり、理科的なものへの憧れをもつ子が増えていった。そこで、「理科があつたらどんなことをやりたいのか」対話する機会をもつと、「宇宙の秘密を知りたい」「台風の仕組みを調べたい」「電気の実験をしたい」などの思いが共有された。その中で、ベイブレードやこまに興味をもっていた子から、「回ることを調べたい」という思いが出されると、「宇宙の星も回るよ」「台風も！」「電気でプロペラが回る」と、つながりが見いだされた。「回る」をテーマにすれば、いろいろなことができそうだという了解が得られ、「回るのけんきゅう」と名づけられた。しばらく個の興味に基づく活動が進み、研究成果の発表場面では、「他のテーマも本当か調べたい」「もっと何度も調べたい」という考えが出てきた。教師は、子どもたちが「科学的な学び方」をしていることに感心し、「いつでも」「何度も」「誰でも」と調べることは「科学的」だと価値づけた。これをきっかけに、個々で調べてきたテーマについて全体で一つずつ詳しく調べることになった。これまでの研究を1とし、2を「風で回る」、3「宇宙で回る」、4「手で回る」（本題材）、5「電気で回る」として取り組むことに決まった。

といつても、その中の個々の目標は異なる。回す物、回る速さや色の変化など、着目していることも違う。そこで、子どもと教師による評価活動が重要となる。本題材での科学的な高まりを、比べる、関係づけるなどの科学的な考え方や、何度も調べる、個の発見の意味をみんなで考えるなど、科学的な手続き、つまり科学の学び方を増やすことをその一つとする。また、**自分の発見を友達の発見とつなげて考え、共通点に気づくことをもう一つとする**。子ども同士が考えを伝え合い、発見に意味を見いだしたり、教師が子どもの目標をひとり一緒に楽しんだりする評価活動によって科学的な高まりを目指す。

**3 学習活動計画（10時間目／全12時間）**

第1次 目ひょうを見つける	…2時間
第2次 つくる・ためす・しらべる	…本時8／9時間
第3次 けんきゅうせいかのはっぽう	…1時間

**4 本時の活動について****(1) 本時のねらい**

- 「手で回る」について、自分の目標の達成に向けて活動し、発見を伝え合うことを通して、それぞれの学び方の工夫に気づき、自分の発見とつなげて考えることができる。

**(2) 予想される本時の展開**

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 目標を確認する。	・個の目標を顕在化する。
2. 活動する。	・目標の達成と一緒に楽しむ。
3. わかちあう（共有する）。	・子どもの考えを解釈し、板書に整理する中で、学び方の工夫や発見のつながりが明確になるようにする。

**□授業後の話し合いで話題にしたいこと**

どのような科学的な高まりが見られたか。また、評価活動が科学的な高まりに機能していたか。